

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ
http://kakyoso.com/

指導体制としては1歩でも2歩でも前進したい(教育長)

子ども・教職員を大切に行政を要望

勤務評定を開示すること

組合 香川県は公開していない。全

教の調べでは、ほとんどの県で一部あるいは全部開示している。全国の動向を県教委はつかんでいるのか。

県教委 把握できていない。

組合 高知県では、校長との面談時に被評価者が希望する場合は2次評価者が開示する。最終面談終了後に開示を希望する者は、2次評価者に対して口頭で開示を求めることができるようになっていく。

香川県でも、もう少し検討してほしい。その点どう考えているか。

県教委 香川県では開示しないと定めているが、職員の能力向上や指導育成については必要に応じて校長などから共有したり指導助言をした

りすることを通じて示している。本人への開示については、他県や知事部局の事情もあることから、状況を見ながら今後検討していきたい。

組合 県教委のHP「教員の人事評

2021年1月28日、香教組は、「2020年度末人事異動について」県教委交渉を行いました。冒頭で、石川中央執行委員長は、香教組と県教委がこれまで築いてきた歴史と信頼関係に基づき、香川の民主的な教育の推進のために互いに尽力することを確認しました。

評価結果を本人にフィードバックすること

評価結果を本人にフィードバックすることは、本人の長所や今後努力すべき点を認識し、自己啓発を進めていくうえで極めて重要と書かれている。評価者は積極的に指導助言を行うなど、常に評価結果を本人にフィードバックすることを努めなければならないとも

これができていると考えているか。

県教委 評価そのものではないにして

も、教員の成果や今後の指導事項については、校長を通じて指導助言をしているものと理解している。

組合 30年以上勤めて

いるが、これまで長所、改善点を一度も言われたことはない。評価は個々を伸ばすためにやっていることのはず。開示しないのであれば、口頭でここに書いていこうとする必要があるのである。しないのであれば何のために評価しているのか。昇給や昇任のためだけに行われているとすれば、おかしいのでは。その点で他の県は開示しているかと考えている。評価結果を給与などに使うのであれば、勤務実績が公正に評

価されていることが前提となるはず。公正かどうか本人に開示しないと判断できない。今後検討し、開示あるいは口頭で示すようにしてほしい。

再任用制度について

組合 再任用の給与が県費講師より抑えられている。月給は高いが年収にすると差がある。希望者が減っていくのではないか。

組合 勤続25年以上にはならない。35歳を過ぎても正規採用になった人は、再任用教員になることできないことになっている。「国との均衡を図っている」ということだが、いろんな年齢層を正規採用しているのだから、再任用できるような国にも意見を言ってみてほしい。

県教委 再任用制度は国家公務員との均衡を取っている。その後、国や他県の動向を注視していきたいと思う。

組合 厳しい年齢制限の中で、採用年齢が上がったことで40歳後半50歳代正規採用になった

方々がいる。長年、講師として香川の教育を支えてくれた方々だ。中には講師時代に、差別的な扱いを受けたという人もいる。それでも、前向きに頑張ってきた。その方々が、「正規採用になっても、講師時代のことを引きずって再任用の対象外としてまた差別されるのだ」と話している。この話を聞いて、心が痛かった。年齢制限を厳しくして、採用人数を減らし、講師を余儀なくしたのは県教委。講師のせいではない。条例を改正し、長年の貢献に感謝し、苦勞に報いるべきでないか。「他県の動向を注視します」のような軽い返答ではなく、重く受け止めてほしい。

講師が正規採用になったら、給与面では前歴換算される。勤務年数も同様に前歴換算してはどうか。積極的に考えてほしい。現場は講師、教諭関係なく仕事をしている。

再任用希望者の希望

再任用希望者はある程度見通しが持てる。教員の総数の中で、再任用希望者に対して、新規採用者これだけ取りたいので、再任用の椅子がなくなるような算定はしていない。再任用希望者に講師も加えて、さらに新採用も加えて運用しているように毎年算定しているという事。

組合 再任用希望者は全員採用になっているという事ではないか。

県教委 再任用希望者はある程度見通しが持てる。教員の総数の中で、再任用希望者に対して、新規採用者これだけ取りたいので、再任用の椅子がなくなるような算定はしていない。再任用希望者に講師も加えて、さらに新採用も加えて運用しているように毎年算定しているという事。

教員の働き方改革と少人数学級

組合 回答書には、小・中学校全学年の「35人学級」を実現する必要があると考えており、とある。私たちがそう思っている。今、少人数指導教員を柔軟に活用して少人数学級が実現している。来年度から国が小2から順次35人以下学級を拡充するとしているが、それは、加配教員を使っている。今までの香川県独自の実施状況が後退することはないのか。

県教委 そういうことがないように配置を考えていけたらと思っている。

香川県の新規採用に関しては、教員の年齢構成で差が生じないようになっている。平準化での採用を行っている。再任用が新規採用に影響を

及ぼすことがないような教員の確保を行っている。具体的な説明を。

組合 「しないようにしたい」ではなく「ない」ですね。現場では、国が制度化して5年かけてすることは決まったが、国の方は加配定数を組み込みながらというように悩ましい表現をしている。だから、香川県は後退するのではと心配している。

県教委 大丈夫であることと目指している。県の単独予算部分の教員もいるが、国に要望している枠では、まだ何人くれるか今の段階ではわからない段階。もちろん、後退するようなことがないように要望しているが、国も言っているように専科や35人学級を充実させる一方で、少人数指導などの加配は全国で3000人引き上げられるので、その影響を受けないことを願っているところ。

組合 ぜひ、県として、も頑張つて予算をとって、香川の教育が後退しないように、また、教職員の働き方改革が進むように心のゆとりと時間のゆとり確保していただきたい。

組合 国は小学校まで校へも拡充するように国に続けて要望してほしい。

組合 採用選考試験の結果の年齢別受験者や合格者の割合を県教委から聞いた。それを倍率にしてみると20歳代は2.8倍、30歳代は5.5倍という結果になった。

組合 講師が香川県の教育に果たしている役割はとて大きい。その人たちに厳しくなっている。どうしてこれほど差がつくのか。

県教委 教員採用については、面接などで総合的に評価をしている。結果として年齢が高いから不利にしているということではない。当然、年齢にかかわらず公正公平にやっている。面接などで評価した結果、結果的にそうなるしまった。

組合 回答の中の「年齢構成の平準化を図る」とはどういうことか。

県教委 他県では退職者の数に応じて採用数を決めているところがある。それは、年齢によって偏りがでてしまうので、毎年、同程度の採用人数を取ることによって長期的にみて人数の偏りがなくするようにしていきたいという趣旨で香川県では「平準化」という方法を取っている。

組合 最初に「年齢に取る」と話したが、今の話だと矛盾しないか。

県教委 令和3年度の教員採用試験において、何歳の方が何%と取るようなことは設けていない。

組合 そればかりか、採用選考試験の結果の年齢構成の「平準化」を図るといっては、過去には辞めていた数に準じて採用数を決めていた時があった。今、大量退職時代に入っていて、これに準じて採用するとここ4〜5年は300人近く採用しなくてはいけなかった。それをやってみようとして、先生になりたと思うと頑張っている学生も「今は講師をやっているが、いつかは受かるぞと頑張っている人」も、かつて経験したように採用数がどんどん減り、それが10年、15年続くので、それは起さないように、300人辞める時も200人ちよつとにする一方で、辞めていく人が100人ぐらいいしからない世代が来たとしても一定数採用するということにしている。

組合 「平準化」なのか。それでは、令和3年度の教員採用試験の結果として20代の方が大変優秀で30代、40代の受験者が優秀でなかったという結論になるのでは。今年に限っては20代の方がとて優秀で講師経験で教員としての仕事をしながら採用試験を受験された方々がそれに見合うだけの成績を取れなかったという風に理解すればいいの。先ほど、総合的に評価をして結果的にそう言ったと説明した。今年は、新卒の採用の割合が大変多かった。

県教委 20代の採用が、その結果として多くなつてしまった。どうしても採用なので、20代が優秀、はい、優秀…(言葉につまる)

組合 これまで、採用代の方は、40代50代正規採用になった。「長い間苦勞してきて、頑張ってきたところがやっと認められた気がして本当にほつとしている」という話を聴きながら、それに続こうと頑張っている人のもいる。ところが、今年9割が20代という結果が出てしまふと現場の講師は本当に今意気消沈している。それならば採用基準がはつきり目に見える形で示さないと、納得がいかない。受験年齢はあげておいて、採用は20代。これでは飼いの殺しではないか。29歳で受験資格がなくなったときは、それはそれで諦めがついた。あまりにも切ない。納得ができない。

組合 登校はするが教室に入れず、保健室登校したり、相談室で過ごしたりする児童がけつこういる。養護教諭には本来の仕事があり、相談室では、やることを伝えて、だれも見えない状況がある。教育なのに教員がつかないということはあつてはならないと思う。どう考えるか。

県教委 今年度、生徒指導、不登校のための加配を学校に配置している。学校の人数に応じて今後とも必要な加配に努めていきたい。

組合 正規教員は無理ない。努力はしていき約束はできない。

組合 必要に時に必要ない。人を来ない。現場の状況は大変だ。そうすると人手がいる。生徒指導課加配をすることで少人数学級や少人数指導が減らされるようなことがないようにお願いしたい。

組合 担任だけで対応できないところ、学校でフリーで動ける教員がいると助かる。登校渋りの子も迎えに行けば来る。そういう対応ができる加配が欲しい。人的な余裕が欲しい。学校はいっぱいいっぱいやっていく。

組合 今、中学校区でラーが配置されている。小学校においてもカウンセラーが本当に必要なようになってきている。小学校にも常駐できないか。保護者・子ども・先生の相談ができることが大事。学校にいろんな立場の人がいていろんな人に相談できるというのは子どもの心の健康の面でも、卒業後にいろいろな所で人に出会ったときも、有効だ。是非検討を。

教育長 重い話ばかり。講師の25年の再任用の話は、よく分かる。公務員制度全体の話なので、県教委が「そうしましょう」とはいかない話。話としてはよくわかる。そういうことができないかということ、一層検討していきたいと思う。35人以下学級・専科制については、なんとか来年度は今年よりは一歩二歩前になる形でやってければと思つている。前提として、指導体制が今年よりはよくなるようにしていきたい。

組合 人事異動など、今から最終的な作業に入る。今日の話なども十分に踏まえながら進めていきたい。今後とも話を聞かせてほしい。

組合 「平準化」により、多くの教員志望者が、教職を離れていった▼その間、香川は、標準定数内の教員でさえ、講師で数を合わせ、教員の数を増やすとともに、二度と暗黒の20年のような事態にならないように「平準化」と方式を取り始めた。

組合 同時に、暗黒の20年世代の年齢構成のバランスを図るために、受験年齢制限を撤廃。かつて涙をのんだ講師が次々と正規採用になつた。まだ不足分のその世代は、県外在職のUターンやIターンで取っていくようにしたい。▼これでは、これまで香川の教育のために尽力してきた講師は、浮かばれない。教育に臨時はない。今後とも制度の見直しを求めていく。

組合 「平準化による教員採用」。結局は、「長期的に毎年20代を採用していくと、経年で教員が順次年を重ねるので、かつてあつたように一定の年齢増が極端に少ないということはない」ということではないか▼これまで、年齢制限が実質撤廃になり、若いころ厳しい年齢制限で涙を吞んで講師として香川の教育に尽くして来た方を、一定数採用し、その穴を埋めつとしたということか▼30年前は、受験年齢は29歳だった。文字通り新規採用は20代で終わりだった。その後、退職者が激減。新規採用者数もそれに比例して減つた。暗黒の20年だった。

組合 結局は20代を採用か



「平準化による教員採用」。結局は、「長期的に毎年20代を採用していくと、経年で教員が順次年を重ねるので、かつてあつたように一定の年齢増が極端に少ないということはない」ということではないか▼これまで、年齢制限が実質撤廃になり、若いころ厳しい年齢制限で涙を吞んで講師として香川の教育に尽くして来た方を、一定数採用し、その穴を埋めつとしたということか▼30年前は、受験年齢は29歳だった。文字通り新規採用は20代で終わりだった。その後、退職者が激減。新規採用者数もそれに比例して減つた。暗黒の20年だった。